



新医学領域の開拓と 革新的医療の創成

【写真】臨床実習風景

医学部・医学研究科のホームページ：
<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ：
医学研究科 教務・学生支援室 tel.075-753-4325

医学部 医学科

Faculty of Medicine

アドミッションポリシー (医学部が望む学生像)

京都大学医学部は21世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが求められます。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種との専門家との連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているため、自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は、多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

理念と目標

京都大学医学部は、医療の第一線で活躍する優秀な臨床医、医療専門職とともに、次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成をその責務とする。

京都大学医学部が育てるのは、単に既存の知識を応用して医療にあたるだけでなく、病気など医学事象の背後にあるものを見抜き、自分の頭で考え、新たな知を創出できる人間、また、広く社会と人間行動を理解し病める人の感情を洞察できる人間、社会全体の健康をめざし高い倫理観を持って行動する人間である。

また、これを人類すべてに発信できる国際性豊かな人間を育てることも我々の使命である。

医学科の教育

カリキュラムは、医師や医学研究者を養成するための教育・実習を基本とします。すべての授業が必須科目で、6年間の授業で、医学全般をすべて学び、経験することになります。基礎医学は、生命科学と医師に必要な解剖学・病理学・法医学・社会健康医学などを学びます。臨床教育は、すべての臨床医学の分野について、授業と臨床実習によって、理論的な基礎と実際の医療現場での活用を学びます。

これらを通じて、6年の卒業後、医師国家試験の受験資格が与えられます。また、MD・PhDコースが用意されており、研究に専念することを希望する学生は、第4学年終了後、大学院へ進学して、医学研究に専念し、早期に学位を取得して研究者としての道を歩むことができます。

● 医学科の教育がめざすもの

京都大学医学部医学科では、個々の学生の、医師、医学研究者としての資質を最大限開拓し、医学や医療の分野で活躍できる、すぐれたリーダーを養成することをめざしています。

「医師」には高度な専門知識の修得と同時に、その知識を論理的に使いこなす能力、病める患者さんと向き合って病気を治療する感性豊かな人間性や、人間そのものに対する深い洞察力を

● 卒業後の進路

研究分野によっては大学院に進学する者もいますが、一般的には医師免許取得後、医学部附属病院あるいは研修病院において2年間の臨床研修を受けます。

● 医学科で取得可能な資格

医学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、厚生労働省が実施する医師国家試験受験資格が与えられます。



必要とします。また、何よりも、人々の健康を増進し、病めるものを救おうという強い情熱が必要です。一方、病気の発生機序の解明、新しい診断法や治療法の開発などをめざす医学研究、制度を改革するための人間社会への深い理解も重要です。京都大学医学部は、このようなすぐれた医療人を育成することをめざしています。

「医学研究者」には、新しい知を開拓するための情熱と、卓抜した能力が必要です。京都大学には、国際的にもすぐれた業績をあげ、卓抜した開発能力を有する指導者が集まっており、研究開発のできる人材を養成する環境が形作られています。

● 生命科学の深淵に触れる基礎医学

第1学年から第2学年にかけて、「全学共通科目」の履修が主体となります。これと並行して、医療人の素養をめぐむ取組や研究マインドを育成するチャレンジも始めます。たとえば、生命科学に関する英語の教材に関して、少人数で教員と議論します。人体の理解の基本となる解剖学をはじめとして基礎医学の履修も開始します。

基礎医学の履修は、第3学年では本格的になり、生命科学の深淵に触れる学習を、さまざまな面から掘り下げて深めていくことになります。京都大学では、多くの学生が様々な研究室で研究に参加しています。世界的な先進的研究を行っている研究室が多く、最新の医学研究を身をもって体験できる機会となっています。

● 実践的な臨床医学教育

臨床医学の教育では、近年、単に医学知識を

習得するだけでなく、臨床の現場に適応して責任をもって診療できる人材を育成することが強く求められています。京都大学では、節目、節目において、積極的に臨床教育の改革を進めてきましたが、単に各々が個別の分野の教育を行うだけでなく、学生が臨床医学を系統的に学習できるように、医学教育推進センターを設けて、実践的な臨床教育を推進しています。

医学部附属病院は、近年、多くの新しい部門、設備が加わり、例えば基礎医学との橋渡しとしての探索医療センターが役割をはたしています。また、地域医療との密接な関係を作り上げ、医療機関同士の連携により医療の効率を上げるた

め地域医療ネットワークが機能しています。初期診療・救急医学のセクションも整備され、外科も新しい形に再編されるなど、新しい時代を担う組織づくりをめざして脱皮し続けています。新しくがん専門棟が構築されるなど整備が進んでいます。診療・治療・教育の場として充実した施設になっています。

また、学外の実習病院では、第一線で医療に携わっている経験豊かな医師が多数臨床教授として学生教育に協力しており、豊富な臨床経験に基づいた少人数教育が行われます。これらを通して、最新の医療の発展に貢献できる人材養成をめざして、密度の高い教育が行われています。

1年生	基礎医学生物学、医学情報リテラシー、外来患者支援実習、病棟体験実習
2年生 3年生	組織学、組織学実習・組織標本作製実習、肉眼解剖学講義実習、発生学、生理学、生理学実習、実験動物学、分子細胞生物学、分子細胞生物学実習、神経科学、脳実習、免疫学、微生物学講義、微生物学実習、寄生虫学、病理学総論、病理学各論・実習、法医学、法医学実習、薬理学・薬理学実習、放射線生物学、遺伝学、薬物動態学・毒性学、医療情報学
3年生 4年生	社会・環境・予防医学、診断治療学総論、循環器病学・心臓血管外科学、血液病学、内分泌・代謝病学/糖尿病・栄養内科学、呼吸器病学、消化器病学、泌尿器科学・腎臓病学、臨床神経学(神経内科学・脳神経外科学)、特殊感染病学、免疫病学、整形外科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、眼科学、婦人科学・産科学、皮膚科学、小児科学、加齢医学(老年医学)、精神医学、麻酔科学・集中治療医学、救急医学、臨床腫瘍学、画像診断学、口腔外科学、形成外科学、医の倫理、臨床検査医学、リハビリテーション医学、医療安全学
4年生	マイコース・プログラム
5年生 6年生	臨床実習(血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、免疫・膠原病内科、老年内科、糖尿病・栄養内科、神経内科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、乳腺外科、小児外科、眼科、産科婦人科、小児科、皮膚科、泌尿器科・人工腎臓科、腎臓内科、耳鼻咽喉科、整形外科、精神科神経科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、集中治療部、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、形成外科、口腔外科、薬剤部、検査部、感染制御部、輸血細胞治療部、病理診断部、外来化学療法部、初期診療・救急医学)
6年生	卒業試験

在学生メッセージ

「責任ある自由」

医学部医学科 4 年生
大井 由貴 さん

毎年、京都大学医学部を多数の人が受験します。京都大学医学部が人をひきつけてやまないのは医学部の伝統や実績のみならず、そこに自由の学風があるからです。入学した百人の新入生は皆、胸の内に京都大学でやりたい事をもって、その夢を実現するために日本中から京都に集まった百人です。そして自由の学風の元、何をやるかも、何を求めるかも全ては自らの主体性によって決めていくのです。本学の伝統も歴史も業績も、そうやって積み重ねられてきました。そしてこれからは私たちがそれを継承するだけでなく、さらに積み上げていくのです。さあ次の百人はあなたです。そして次の京大に発見や業績を積み重ねていくのもまたあなたです。充実した大学生活を送れるため自分が本学で何をしたいかを明確にすれば、きっと京都であなたの夢は花開くでしょう。



卒業生メッセージ

「道」

2010 年度医学科卒業
京都大学医学部附属病院研修医
播摩 裕 さん

「外傷外科をやりたい。」初期診療・救急科の門を叩いたのは6年生の時でした。在学中にできたまだ新しい教室ですが、臨床実習の際に興味を持ち、思いを話しました。それならと道を示していただき、医師としての生活が始まりました。1年目は関連病院で研修し、大学に戻ってきました。思いは変わらず、再び門を叩きました。道はさらに具体的なものとなり、今は変わりつつある救急医療に携わるべく、日々研修に励んでいます。

京都大学には最先端を行く医学・医療が数多く存在します。その門戸は常に開かれており、望めばいくらでも経験することができます。学生のうちから関わることもできます。歩めば道はのびのびと開けてきます。皆さんも京都大学で自分の道を探し、突き進んでください。



人生の「原点」としての大学

2011 年医学科卒業
京都大学大学院医学研究科 医学専攻 統計遺伝学
奈良原 舞子 さん

卒業後、大学院へ進学して研究者としての道を目指しています。大学時代という、人生において大変貴重な6年間を京都大学で過ごせたことを私はとても幸せだと思っています。京都大学には、学生一人ひとりがやりたいことを自由にやれる校風があり、またそれを実現させてもらえるだけの先生方の協力などの環境があります。私の場合は、さまざまな分野の研究室を経験させていただき、また、2度の海外留学も経験することができました。大学時代の経験は、将来の方向を決める上で、また私自身の生き方を考える上でも大きな変化をもたらすもので、まさに私の「原点」ともなる6年間でした。京都大学は、自由だからこそ、誰にとっても「原点」にする機会を与えてくれる大学なのではないでしょうか。

